

# 立命電友会

## 未来に生きるために

トヨタ自動車(株)勤務  
楠 和弘  
(平成五年 電気工学研究科卒)

まず、今年三月十一日に起きた東日本大震災で被災された学友の皆様には心よりお見舞い申し上げます。人的・物的損害を被られ辛い日々をお過ごしの方も多いと思います。復旧に向けて微力ながらも支援していく所存ですので、共に前を向いて、長い復興への道を歩いていきましょう。

### 【いきさつ】

さて今回、研究室同窓会の中で、恩師から電友会会報への執筆の依頼を受けました。その場でお受けしますと返事をしましたが、諸先輩方を差し置いて何を書こうかと



思案しましたが、我々に馴染みの深い末川先生の「未来を信じ、未来に生きる」の言葉から未来に生きるために私たちが為すべき事という題材で以下の文章を続けていくことにしました。

### 【立命館大学の日々】

最初に、立命館大学で過ごした日々の印象的な事と、就職後の略歴を簡単にお話して、その後本論に移りたいと思います。

一、二回生の頃、大阪から一時間の授業に間に合うよう毎日始発の電車に乗り、片道三時間以上、かけて大学まで通っていた日々を思い出します。三回生以降は教養課程をあらかじめ修了していたので始発に飛び乗ってという生活からは開放されましたが、この時には粘り強く途中で投げ出さないことが目標を達成するには重要な事だと体で覚えた気がします。また勉学面で印象深いのが電気工学実験

### 目次

- P1 ..... 巻頭言
- P2 ..... 新任のご挨拶
- P3 ..... 卒業生からの投稿
- P4 ..... 卒業生からの投稿
- P5 ..... 決算報告
- P6 ..... 支部総会・同窓会便り
- P7 ..... 同窓会便り
- P8 ..... 同窓会便り

は縁遠い部署へ異動となり現在に至ります。

### 【未来に生きる】

皆さんもご存知の様に自動車業界では脱化石燃料化が進んでいます。ハイオディーゼルやETAノール等の代替燃料やハイブリッド、そして純粋な電気自動車や燃料電池式電気自動車などエコカーと呼ばれる様々な選択肢が研究開発されています。また、自動車業界のみならず我々を取り巻く住環境でもスマートグリッドと呼ばれる、どの様に電気を生み出し、蓄積し、配送するかをIT技術を駆使し最適化する新しい電力網が構想段階から実験段階へ移されようとしています。これら、エコカーやスマートグリッドの開発の背景には脱中東依存という政治的な思惑もありますが、大気汚染や地球温暖化など我々の未来を危うくする変化が起きている故です。地球温暖化には様々な考察がありますが、燃料消費や排出ガスを低減することは環境へ配慮し、サステイナブルな社会を構築していくという意味で正しい取り組みであることは間違いありません。この「サステイナブルな社会を構築していく」ということが、我々が「未来に生きる」ということであり、技術者として技術的なイノベーションを提供していくことにより貢献できるのだと考えています。そしてその主役は我々に最も馴染みの深い「電気」なのです。発電、送電、蓄電とありとあらゆるフィールドが我々を待ち受けています。

### 【更なる未来に向けて】

未来に生きるということはもう

一つの重要な意味があると考えています。それは後進を育てること。ベルギーでの経験から産学の連携強化を通じた後進の育成について二点提案します。①インターンシップの強化、②企業活動と論文テーマの連携です。

① 欧州では数ヶ月にわたるインターンシップは当たり前でどの学生もCV(履歴書)に自分のインターンシップのテーマを載せています。我々の欧州R&Dでも欧州各国から学生を受け入れていました。全てがうまく行くとは言いませんが、企業は基礎的な解析サポートを得られ、学生は工学の実務への活用を体感できるという双方のメリットがあります。立命館でも全ての学生が経験できる様になればと思います。

② 私の欧州での部署では、ベルギーの Louvain 大学の大学院生の修論テーマを提供しました。インターンシップは経験+刺激が主ですが、修論テーマとなる一年に亘る研究となりますので、実務としてもある成果を見込めます。人件費を増やせない企業にとっては研究・開発を加速させるためにも単発ではなく継続的に実施したいものです。これらの提案は一般的なものではありませんが、欧州での状況・環境を目的にすると、立命館もまだ貪欲に企業との連携を密にする余地はあるのでは?と思えます。第です。我々自身が後進の人たちと未来の可能性を信じ、未来を創っていくために今出来ることは何かを問い続けていくために。

新任のご挨拶

電子情報工学科

准教授 宇野 重康

二〇一一年四月に電子情報工学科に着任いたしました。

私は京都府北部の京丹後市峰山町で生まれ育ち、海と山と川に囲まれて育ちました。高校卒業後は京都市北区の上賀茂神社近辺にあった「樫の実学園」という予備校で一年間の大学受験浪人を経験したのち、関西学院大学理学部物理学科(西宮市)で四年、大阪大学理学研究科物理学専攻(豊中市)で修士課程の二年を過ごし、大阪大学工学研究科(吹田市)で博士課程を修了しました。その後、日立ケンブリッジ研究所(英国ケンブリッジ)で博士研究員として二年、クレアモント大学院大学(米国カリフォルニア州)で一年、そして名古屋大学工学研究科で五年半のあいだ助手・助教として従事しました。そして今年四月より立命館大学の一員として教育と研究を行わせていただくこととなった次第です。

高校までの私はクラブ活動と遊びばかりが盛んで、勉強が苦手でした。高校三年になる直前の春休みに受けたセンター模擬試験で偏差値が四十を割っていたことを両親に告げると、「勉強してへんからあたりまえやわ、あははは」といった調子で……。そんな私も物

理だけは大好きで、浪人中に猛烈に勉強したこともあり、なんとか理工系研究教育者として今日まで歩んで来ることができました。

その間に、大学では量子力学の基礎を固め、修士課程では極低温での量子Hall効果の実験を行い、博士課程ではMOSEFETのゲート絶縁膜信頼性の研究を行いました。日立ケンブリッジ研究所とクレアモント大学院大学ではナノスケールの半導体構造や微細MOSEFET内の電子輸送のモデリングとシミュレーションを専門としていました。また、名古屋大学からはCMOS集積回路チップを用いたバイオセンシングに関する実験研究を並行して行うようになりまし

た。本学では引き続きCMOSバイオセンサーの開発とナノスケールMOSEFETの研究を行い、それらを立命館の他の先生方の技術と融合することで新しい研究へと発展させたいと考えております。立命館に着任してまだ日が浅く少数の学生としか接していませんが、学生達と話をしていると「ああ、関学でもこんな感じだったな」と懐かしくなるのがよくあります。当時の私よりもずっと真面目で優秀な学生がいて感心させられたり、それほど勉強が好きでなさそうな学生も結構かわいく思えたりします。そんな彼らには、自由に夢を描いてそのために自己改革

することで実現していくという生き方をしてほしいと思います。大学入試が人生の予選だとすると本戦は就職後の仕事ですから、彼らはまだまだ更に大きく化けることができるはずですよ。私はその可能性を引き出すことで、彼らに本戦にて大いに飛躍してほしいと思います。

今思い返すと、京都で大学浪人生活をしたのちめぐり巡ってようやく(ほぼ)京都に戻ってきた気がします。また、関西私立大学で大学生活を過ごしたのち、ぐるりと回ってまた元いた場所に戻ってきた気がします。今後は立命館大学と皆様のために貢献するべく、微力ながら粉骨砕身していく所存です。まだまだ未熟者ですので、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

電子情報工学科

准教授 峯元 高志

二〇一一年四月より、電子情報工学科に准教授として着任しました。

私は、立命館大学理工学部の電気電子工学科にびわく・くさつキャンパスができた一九九四年に入学しました。当時は南草津駅が建設中で、まだ停車できない状態でした。南草津駅の周りにはお店がほとんどなく、コンビニが一つしか

なかったと思います。現在は、大型商業施設や飲食店が立ち並び、

大学町らしく活気づいていいると思います。さて、学部から院に進学することを決めたのですが、そのときに太陽電池の研究で著名な本学の濱川先生と高倉先生に出会いました。当時からクリーンエネルギーに興味があり、太陽電池関連の企業で働きたいと考えていたが、「太陽電池ではメシが食えない」といわれていました。しかし、いずれは自然エネルギー(太陽光)を瞬時に電気エネルギーに変換できる半導体デバイスである太陽電池が脚光を浴びるだろうと信じて、太陽電池一筋で研究してまいりました。

研究の中心ですが、化合物薄膜を用いた太陽電池を製作しています。化合物とは、二種類以上の元素がくっついて(化合して)できたものです。太陽電池材料の現在の主流はシリコン結晶であり、太陽光を十分に吸収するのに二〇〇ミクロン程度の厚みが必要とします。私が研究しているCu(In,Ga)S<sub>2</sub>化合物薄膜では、厚み二ミクロンで太陽光を十分に吸収できます。薄膜化が可能であり、省資源化、高生産性化に大きな可能性を秘めています。最近ではこの材料が非常に注目されていて、相談にいらっしやる企業の方も多く、複数の共同研究を進めています。

また、他の研究としては、屋外に設置した太陽電池パネルからの出力を計測しています。現在の太陽電池は、ある決まった条件にお

ける瞬時の発電能力で値付け(性能のランク付け)がされています。しかし、この決まった条件というのが、実際に設置場所の環境条件とは大きく異なっています。これまではシリコン結晶を用いた太陽電池が市場の八割以上を占めていたので大きな問題がなかったのですが、今後新しい低コスト太陽電池が普及しだすと、太陽電池の公平な取引のために、公平な値付けがより必要とされます。このために、瞬時出力ではなく、発電量で太陽電池の値付けを行うための技術開発が全世界的に議論されており、私もその研究に取り組んでいます。

太陽電池がすべてではありませんが、クリーンエネルギーの開発は今後の人類の大きな課題であることは間違いありません。大学人として学術面に力を入れることは当然ですが、実用化を真剣に見据えた研究を行っていきたいと思います。

さて、二〇〇一年に博士号をいただいたから、一旦アメリカでポスドクとして勤めたあと、本学に戻り、ポスドク、講師、准教授として勤めてまいりました。新任といいますが、すでに十六年間本学にはお世話になっておりますが、心機一転して、教育・研究・社会貢献に励んでいく所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願

立命館と私

萩田泰廣

(昭和四十六年卒)

三月に未曾有の大地震が発生し、災害に遭われました方にお見舞い申し上げます。

そしてこの夏は、日本中が節電に取り組みこれからのエネルギーを考える新しい時代になったのではないのでしょうか。日本頑張ります。

さて、立命館と私ですが、入学したのは中学で大学までの十年間勉学をしました。田舎から都会へ通学し市内の学生には圧倒され、すべてが新鮮で興味が沸き楽しくもあり苦勞もありました。まず中学に入学した時のことですが総長の話や人生に活かされました。総長は末川先生です。全員集会の時に演台に牛の置物を置いて牛と馬を比較されるのです。人生は牛のよ

縁の下の力持ち的な方が社会を支え、人々に貢献できるのでこちらの方を薦めます。このような話を記憶しております。私は丑年の生まれでもあり非常に共感しました。これまでの人生は馬ではなく牛のようですが社会貢献をしているかと自問しますとまだまだ何もしていません。還暦を過ぎこれからは社会貢献が出来るように頑張らなければと思っております。

次に大学で電気工学科を選択したのは、テレビに興味を抱き映像が不思議でならずこの学科しかないとの思いで入学しました。しかし学生時代はごく平凡に過ごしたので、電気の難しさだけが残り卒業してからは苦勞の毎日です。大学で初めて電気実験をした時のことですが、やっと電気がわくわくし、電圧計、電流計、スライダック等配線し稼動して特性を調べることの楽しさを覚えております。しかし、レポート提出となると先生から質問が飛び出し「なぜこのようになるのですか」と聞かれると全

く答えられず何度も再提出となり図書館で調べたり、友人に教わったりで、苦勞して作成した事が記憶に残っております。理解せずにただ単に教科書通りの事をしただけでした。この事は企業に就職し製品開発をしていて色々なトラブルに直面した時、「なぜこのようになるのか」「なぜ」を自分に問いかけることが多く、レポート提出のときを思い出しております。私は家電製品の開発設計を長年しており、皆様も色々な経験をお持ちと思いますが、家電の設計は品質、価格、機能面等他社との競争です。常に新しい機能を導入しなければ負け組みになります。当時まだ白物家電に電子化がされていなかった他社より先行し導入しました。失敗も多く上司からは勉強代だよと慰めもありました。しかし悔しさの連続です。そのなかで悩んだ現象があります。交流単相モータを駆動する制御でリレー接点の一方が凸、他方が凹になり機械的に短絡運転を起こしたことがあります。直流ではありうるのですが交流では通常ではありえないのです。研究所の専門家にもお聞きしましたが判りませんでした。このような時も「なぜこのようになるのか」の毎日です。一緒に開発したメンバーとも夜遅くまで検

討しましたが時間だけが過ぎました。最後まで諦めず調べた結果、原因(電子制御の直流電源に含まれるリップル)が判明し、この時はさわやかな気分になり忘れられませんが、また製品開発でも「なぜこの部品が必要なのか」一つ一つの部品には意味があり、さらに考えると新しい発見が見つかる事もあります。また楽しさもありません。電気実験を通して現象をただ覚えるのではなく「なぜこのようになるのか」常に考察と疑問を持つことを教わったように思います。三十数年間企業で製品開発をして特許でも数々の賞も頂き、特に注目発明選定証を頂いた事に技術者としては満足しております。

次に立命館との関わりは某電気会社を早期退職し立命館大学BK Cで産官学連携業務に携わることになりました。この時は立命館で仕事が出来る事が非常に嬉しく思い、少しは恩返しができるかとの気持ちで約四年間業務をさせて頂きました。この間、感じましたことは産業界のグローバル化時代です。海外企業との競争が激しく同業種間でも共同開発を進め海外企業との競争に打ち勝とうとしています。このような状況時、大学との共同研究も進めるべき時代であると感じました。立命館大学で

は産官学連携の事業は日本一クラスです。ご存知の方も多いと思いますがBK Cには日本には数少ない施設、SR装置(ミニスプリング8)もあります。現在はさらに変貌を遂げ理工学部系の学部も増え研究施設も充実しております。是非、最近の大学の研究内容に注目し、多くの企業が大学との連携で研究をされますことをお勧めします。

現在、私は電友会二十周年事業の準備委員会のメンバーをさせていただいております。開催日は平成二十四年七月七日(土)です。楽しい思い出に残る企画を予定しておりますので是非多くの卒業生が同窓生をお誘いして参加していただきますようお願いいたします。最後に立命館での学んだことは誇りに思います。



# 卒業研究から今までの歩み

## 松浦秀雄

(昭和四十五年卒)

卒業研究はこのころ少し耳にしただしたブル代数を選択しました。文献は少なく先生に進められた外書を、京都の山奥(花背?)にあるお寺に合宿して翻訳し研究しました。当時(一九六九年)は学生運動の真っ只中で、衣笠では電気工学科の建物が封鎖され、内部はかなり壊され、建物の裏にあった墓地の石が沢山持ち込まれていました。これらを先生とみんなで片付けたことを思い出しました。

研究の成果と実際の電子回路を実践するために、学生運動で破壊された電話器が研究室にありここから出る信号をカウントする回路を製作することにしました。

卒業後に就職した会社では研修が終了すると、すぐに電子回路の設計(トランジスタが十番台の時代)をさせられ、電子を経験している先輩もなく会社から寮に帰ると必死に勉強したものでした、回路は出来てもプリント基板どんなにして作る……。

一号機は大阪天王寺にあるレ

ジャーセンタービル「アポロ」の中央監視室のビル管理システムでした。徹夜の連続でテレビではオープンの日が放映されているし、何とか試運転して動作したのはオープンの前日でした。その後は関西の大きなビル、地下街等に多数納入しました。

ビル管理(プラント制御)の電子装置を設計しながら、七十年ごろから一般に使用しだしたマイクロコンピュータにいち早くチャレンジ(それまではミニコンのハード、ソフト設計ばかり)ハード、ソフトに奮闘する日々でしたが、三十八歳であるきっかけで起業することとなり現在も現役で設計(主にOEM仕様の量産型産業機械の電子制御装置)しています。

会社は十五名の小さな会社です。バブル期にも蓄えを忘れず、技術力とニッチな市場をターゲットに展開し、開発・設計・製造・販売を一貫し、付加価値ないところは外注指向し、出来るだけ機械化し小ロット多品種を実践したのがよかったのか二十五年間があまり不

況しらずに来れました。十五年目にして小さいながら自社ビルも建設でき、会社はあまりみんなが得意としないパワー制御・アナログ制御などに更に磨きをかけ利益率を上げるように奮闘しています。

僕の学生時代からの趣味の一つの旅行を、全社員と一緒に年一〜三回海外へ行き楽しんでいきます。

五十歳ごろから、子育ても終わり、親守り(認知症)がスタートしたところから、何か気持ちの中で満たされないものがあり、会社の帰り道にあまり飲んだことのない酒を居酒屋で飲む訓練をしました。

ビールが一〜二本飲める位になるも、体が太るばかり。しかし友達もまた沢山できこれも少しはいいかも……。また大学時代によく楽しんだボウリングを、マイボウル・マイシューズでセミプロぐらいにと会社の帰り隔日に五〜十ゲーム練習に通い、三〜四年打ち込みアベレージが一八〇点〜二〇〇点以上となり、個人の試合または他社チームとの試合に参加し、年齢の違う友達も沢山できましたが、これもなにか違う。

二〇〇八年十一月に初めて入った寿司屋にあったポスターが目に入る(ミャンマーに学校を建てる会) すぐに入会(二〇〇〇年発足、

会員数十三〜十五人程度)、自分の思いはここに有りと直感し、ミャンマー(旧ビルマ)について色々なことを考えさせられ、何とかミャンマーのためにと、ミャンマー人との交流・ミャンマー人留学生との交流・募金活動・チャリティ&展示会を展開しています。

僕としては初めて、この会としては十二校目になる小学校をヤング管区コム郡イーダーシェイ村に建設しました。この学校はサイクロン「ナルギス」にて全壊し、バラック小屋(当時二三人)にて勉強していました。二〇〇九年六月に新校舎は完成し、翌年二月に開校式に招待され、片言のミャンマー語でのスピーチし(ミンガラバー…こんにちは)、地区の基礎教育小学校の学長の挨拶、日本大使館の書記官の挨拶、校長先生のお礼の言葉など、村中の人々に歓迎され、大変な感激をし、新たな気持ちで取り組もうとの思いを強くしました。

ミャンマーでは、日本人の墓地(約八〇〇ヶ所あるそうです)の慰霊、その他の施設を慰問、ミャンマーに帰られた留学生との交流、すでに建設した学校の訪問、ミャンマー日本大使館との意見交換会などを行っています。

物価が日本の十分の一程度なの

で出来るだけミャンマーで買い物して学校や施設等への贈り物を調達して訪問・慰霊・慰問しています。

二〇一〇年に日本で布教活動されているミャンマーの僧侶が《直訴された村に学校を建設》この会に提案し、聞くところこの村の子供たちは中学校に通うのが片道八kmあり、往復六時間歩いて登校しているとのことでした。登校の途中は人がほとんどいないので、十二歳の子供が途中で殺害されよく問題が起こるので、近くに中学校がほしい。小学校も建物が小さくひどいとのこと、少し躊躇しました

が、この会としては十四校目になる小中学校(中学校は初めて)を、ヤング管区カヤン市マジカーン村に建設する事にしました。

二〇一一年六月に完成し、二〇一二年二月に開校式を予定してきています。子供たちに会えるのをとても楽しみにしています。

《前日も今回も開校式は僕の誕生日で、嬉しい演出ですね》

子供たちは、とても素直でよく学びます。大きくなったらこの国の基礎を築き「ゆっくり」と国が豊かになって行くようにと願っています。

僕も仕事を出来るだけ続け、学校をもっと建設して役に立てればと頑張っています。

と頑張っています。

立命電友会九州・沖縄支部  
十一回総会・懇親会開催

六月十一日(土)に、平成二十三年度の「立命電友会九州・沖縄支部」の総会・懇親会を、新しい博多駅ビル「JR博多シティ」で開催しました。大雨警報が出て九州新幹線が一部不通になるなど参加できない人があるのではないかと心配されましたが全員時間どおり集合することができました。

九州新幹線は開通前日の三月十一日(金)に起こった東日本大震災の影響で全線開通のオープンングセレモニーが中止になるなど波乱の船出となりましたが、新幹線の利用者は予想以上に多く関係者は一安心と言ったところです。

今回は、新幹線の全線開通に先立ち三月三日にオープンしていた地下三階、地上十階、延べ床面積は約二十万平方メートルの複合施設であり、九州初出店の百貨店「博多阪急」、九州初の「東急ハンズ」、シネコン「テイ・ジョイ」など約二三〇店舗が入居するJR九州の商業施設「アミュープラザ博多」、飲食店街の「博多一番」などの施設からなる新駅ビル「JR博多シティ」の電気設備を見学しました。「JR博多シティ」の電気設備は、66kV二回線受電、受電変圧器は33MVA二台、非常用発電設備はガスタービンエンジン

ン2000kVA二台、蓄電池設備は五セットなど九州で最も規模の大きな施設となっています。防災設備もこれらいくつかのテナント群を総合的に監視・管理できる「総合防災盤」が設置され、安全性にも優れた複合施設となっています。また当施設には氷蓄熱設備が設けられており、省エネ、経費節減の取り組みがなされています。これから最先端の電気設備や蓄熱システムを見学できたことは大変意義ある内容であったと思われれます。

約二時間の見学会後の懇親会は、飲食店街の「博多一番」にある十階の「タイ料理店」で開催しました。開催に先立ち乾杯の音頭を今回初めて参加いただいた津田先生(四十四年卒)にお願いして始められました。高山先生から大学の進展ぶりが感じられる近況報告などがありました。

例年のことながら、話も尽きない中隣り間に二時間の時が過ぎ、来年も六月の第二土曜日に開催することを決めるとともに、再会を約束しつつ閉会、三々五々会場を後にしました。

本年の参加者は、荒木前会長、高山先生、津田先生、杉本幸生役員、山下恭介(三十四年卒)、小宮敏孝(三十五年)、服部征記(三十七年)、後藤浩文(三十八年)、西一郎(三十八年)、村上富男(四十年)、前田隆(四十年)、山

口一生(四十一年)、西山興男(四十三年)、岡部千年(五十一年)、横山正人(五十一年)の皆様と森下(四十四年)の十六名でした。最後になりましたが、本会の開催にあたり案内状の作成・発信、名簿の作成などのご支援いただきました電友会事務局の皆様には厚くお礼申し上げます。  
(森下 明憲 記)



同窓会だより

辻村・前田・浦山研究室  
合同定例同窓会報告

去る二〇二二年六月四日に辻村・前田・浦山研究室合同定例同窓会が開催されました。

一年半に一度の開催という変則的な定例会ですが、今回も京都は地下鉄東西線堀川二条城駅近くの神泉苑平八において四十一名の研究室OBが参加されました。また、今回は電友会の南会長にもご出席いただき電友会情報や学内状況などを紹介していただく予定でしたが、所用のため欠席されたことは残念でした。

さて、同窓会は総会として十八時からまず藤井会長、浦山先生のご挨拶に始まり、大学職員であるが故に大学との交渉事や汚れ役を買っていたらいてる森岡幹事とともに無事承認されました。次にメインイベントである記念講演を五十二年浦山研卒の巻田氏(オムロンヘルスケア執行役員)による「グローバル展開に向けての現状と今後」というビジネステーマにてご講演をいただきました。お忙しい中、いろいろとご準備をいただき本当にありがとうございます。ただ、時間の関係から質疑応答の時間が取れず、より突っ込

んだ話題、例えば、コンペティターの動向やそれへの対抗戦略、自社の弱みとその対策などといった、いわゆる「生」の情報等についての意見交換ができればより盛り上がったとおもわれ、この点については今後の課題にいたしたいと思います。

この後、プロキヤメラマン・前田先生のご発声にて旧交を温める宴会へと突入し、それまで元気がなかった方も急激にV字回復され熱弁を振るわれるなどいつもの賑やかな場となりました。宴会開始後しばらくして、いまや巷では伝説の弁士とも称せられる辻村先生からいつものユーモアのある語り口調にて、ご挨拶から近況、私生活に至るまで興味あるお話をいただきました。ご自身ではあちらこちらが弱ってダメだ、とはおっしゃっていますが、ここに敢えてご報告申し上げます。辻村先生はご健在です。

落ち着いた雰囲気のある宴会場で、また畳の上に椅子という和洋折衷





でありながら違和感がなく、身体的にも楽で、また時間的にも余裕があったせいか、あれよあれよという間に三時間がとうに過ぎ、最後の締めのお言葉を森原(旧山下)さんから頂戴し、さてさてトリを飾るのはやはり前田プロによる集合写真でございます。プロからの必要にして十分、ソツのない確かな指示にて四十名の大的おとなが右に左に前に後ろにと、まるで雀の学校のごとく各自の位置取りを確認、確保し前田先生のシャッター音にて三時間半の京の宴がお開きとなった次第でございます。

会員の皆様におかれましては多大なるご協力をいただき、また先

生方にも毎度毎度の事前打合せにもご出席願ひ、これ以上ないというほどの綿密な計画にて実施でき、そこそこの結果が得られましたことに藤井会長をはじめ幹事一同、改めまして厚くお礼申し上げます。

次回の合同定期同窓会は二〇二二年七月七日(立命電友会第六回総会・創立二十周年記念祝賀会)に開催(詳細は後日)いたします。

(記 小川 弘之)

### 第七回七〇電友会 (一九七〇年、昭和四十五年卒)

七〇年卒同窓会は二〇一一年六月二十五日(土)東本願寺前の山田屋旅館にて開催しました。

総勢二十名の少々物足りない感じでスタートしましたが内容はしっかりと充実していたと思います。今回は東日本大震災の犠牲者と年始に亡くなられた中村先生、並びに同窓生で物故された方々への哀悼の意を表す黙祷から始まりました。

懇親が進んだ段階で、恒例により出席者による順次の近況報告。先ずはI先生。早速幹事の不手際が露呈。各人の持ち時間を設定せずに開始したため、「コーラス・家庭菜園・クルム伊達選手との十年前のテニスでの話題等々」嘗ての講義の如く益々熱を帯び終わる気配なし。T先生から「時間制

限をしないといつ終わるか判らんぞ」と忠告の声。早速時間を設定させていただく。T先生は、八十路を越えられました。やはり学園封鎖の経過について我が学年のみが共有できる特殊な経験を熱く語っていただきました。私生活では、近年GOLFのスコアは二桁を維持との由。Age-Shooterの意気込みや如何? M先生は、日常生活にはじまりソフトボールの話題にまで及び、いつまでも興味の幅を感じさせる内容。

引き続き生徒側の現況報告。卒業以来四十数年振りの初参加者が三名。各人の趣味や日常生活・経歴などを開陳。日本刀の研ぎ士、落ち研継続中、仕事を通じてインマーで小学校建設のボランティア活動されている人、等。更には、午前中に海外旅行から帰国。COPに堪えての参加者まで。今回参加できなかった方で、約五十日間をかけてスペイン・イギリスを周遊中の同窓生、等の葉書通信を織り交ぜながら進行。時間内に自分の番が廻ってくるかと心配しながら経過。そこは、会社勤め云十年世間の常識をわきまえた皆さんの協力により、時間内に意見表明もすっかり完了。以後、車座になり歓談。最後は恒例により校歌斉唱・寮歌放吟・応援歌高吟。

二次会は個室に移り、延々午前一時頃まで侃々諤々。年齢を忘れ

て意見交換(私見開陳?)。以後は何時を通りの宴会疲れ。しかし不思議な事に、朝のビールや朝食はしっかりと。

二年後の再開を約し、三々五々我が家へと思ひ出を胸に解散となりました。

事後談・幹事は自宅で写真を整理。それを我が女房が覗き見て、先生と生徒の区別が付かず。先生が若写りなのか?生徒が老けているのか?メダカの学校ではないですが「だーれが、生徒か先生か皆で仲良く写ってる〜!」。先生の方がシャッキッと腰も伸びているのと違つ?顔の皺も?それに頭部の方も?。我が女房、自分自身の皺は忘れているのが恐ろしい?!

四・八は三十二(皺三十二)の倍・六十四歳近辺の「おじ(い)さん軍団」です。

先生には負けていられない。頑張れ、団塊・七十年・学園封鎖世代。(記 奥村 晃)



### 六十八期生会 (昭和四十七年卒)開催

昨年十月の始め、前回(〇八年十月開催)の幹事より電気工学科(六十八年入学者)全体の同窓会の開催幹事の要請があり、小生の事情(在京・まだ現役)より、時期を十一月四月以降という条件で受諾しました。前回幹事より名簿を入手し、開催趣旨・開催場所・開催時期を検討し、開催趣旨は第二の人生の決起大会(十年三月で全員が還暦を迎えた為)。日時は二〇二一年四月九日(土)十三時〜十五時三十分場所は新・都ホテル京都(思い出の地である京都)で案内書を作成し、一一年一月中旬に一一八名に郵便・メールで案内をかけた。何名が参加してくれるのか不安を持ちながら、最悪の場合でも前回の十三名以上の呼び込みマンを協力者としてお願いしました。二月末の締め切りで二名の呼び込みマンには一週間置きに参加状況をメールし、参加要請をTEL・メールにて督促をかけてもらい、小生は在京メンバーには交通費・参加費を合算すると四万円以上の費用が必要であり無理が言えない状況でした。作戦が功を奏し、三月の始めて二十九名の申し込みがありました。

しかし、三月十一日の事故が発生し、開催の実施をゼロベースで考えました。この結果、被災者への哀悼の意を表し、華美を排し、開催趣旨を明確にして開催の決行を行いました。参加者は東は茨城県・西は山口県（在京メンバーは七名）から総勢二十四名が参加し、楽しい時間を過ごしました。（その時の状況写真を添付しておきます）開催にあたり、東日本大地震の被災者に対して黙祷を捧げ、中締めの際、頑張ろう！東北・頑張ろう！日本・頑張ろう！六十八期生を唱和し全員の益々の健勝と活躍を期し再会を誓い合いました。

その後二次会に行く人・帰宅する人と全員無事いつもの生活に戻りました。（森 哲章 記）

第五回 南会長【活動報告】

三十七、平成二十三年三月二十一日（月）十八時

立命館大学理工学部電子システム系卒業・終了記念祝賀会兼立命電友会入会式が午後六時から草津エスタピオホテルで開催される予定でしたが、東日本大地震の件で中止となりました。三十八、平成二十三年四月二日（土）十二時

東日本大震災支援の為に立命電友会臨時役員会が午後一時からBKC内エポック21三階三〇六号室で開催。十七名出席。冒頭被災地の方々に黙祷をささげたと会長挨拶ののち、電友会としての電友会会員に対する支援の方法、活動などを討議しました。各会員の皆様には積極的な義捐金の寄付のお願い、電友会のWeb上での応援メールの掲載などの活動、それととりあえず関東、東北地方の電友会会員をピックアップして各年度役員が安否確認を行い問い合わせ、被害状況を把握することになりました。

三十九、平成二十三年四月五日（火）十三時

立命館大学理工系同窓会連絡協議会会長の中山氏と電話会談しました。東日本大震災支援の為に立命電友会が六つの同窓会組織として真っ先に取り組み活動していることに大きな評価を頂きました。連絡協議会としての取り組み、寄付金などの支援方法を要望しました。

四十、平成二十三年四月七日（木）

十三時

電友会事務局より送付のありました関東、東北地方の電友会会員名簿を基に電話問い合わせを行い安否確認、被害状況を聞きとりました。

四十一、平成二十三年四月十六日（土）十八時

名誉教授 浦山先生を囲む会が四条烏丸かごの屋にて開催。辻村先生、前田先生、井上先生、三木先生、溝尻先生、津田川先生、杉本先生他総勢役四十名ほどの参加者で賑やかに祝いました。電友会設立発起人として設立に尽力されましたことへの御功績に對しまして電友会会長として感謝の挨拶をさせて頂きました。

四十二、平成二十三年四月二十一日（木）十三時

電友会事務局より依頼要望のありましたWeb上の電友会ホームページのバナー広告掲載企業様に広告継続の依頼、お願いを電話で行いました。

四十三、平成二十三年五月七日（土）十三時

立命電友会第六回総会・創立二十周年記念祝賀会の準備委員会（第四回目）が午後一時からBKC内エポック21三階三〇六号室で開催されました。十四名出席。会長挨拶の後、開催日時（平成二十四年七月七日土曜午後一時より）開催場所（京都全日空ホテル）等をWeb上の電友会ホームページ上にアップして会員の皆様に周知する。総予算、記念品、記念講演、司会者アトラクション募金等々、多彩

な討議をおこないました。四十四、平成二十三年五月二十八日（土）十三時

平成二十三年度立命電友会役員会が午後一時からBKC内エポック21三階三〇一〇号室で開催。二十七名出席。開会宣言、会長挨拶の後、田中副会長に議長をお願いして討議にはいりました。平成二十三年度の事業報告、決算報告、事業計画、予算案の提起、東日本大震災への取り組み、立命電友会第六回総会・創立二十周年記念祝賀会の開催概要など多岐にわたる事項に討論を重ね、また御承認を頂き閉会しました。

四十五、平成二十三年六月四日（土）十七時

辻村、前田、浦山研究室定例同窓会が神泉苑1平八で催されました。予定が入っておりまして欠席しました。

四十六、平成二十三年七月九日（土）十三時

立命電友会第六回総会・創立二十周年記念祝賀会）の為に第五回準備委員会が午後一時からBKC内エポック21で開催されましたが電気工事士国家試験の試験員に任命されておりまして、その会議の開催が大阪で以前より決定しておりましたので欠席しました。

四十七、平成二十三年七月三十日（土）十八時

平成二十三年度立命館大学理工系同窓会連絡協議会が京都タワーホテルで開催。同時刻に京都校友会の行事が有りましたので欠席しました。

計報

卒年	氏名	氏名
昭14年	坂本 源蔵	平成23年7月18日
昭31年	中村 賢	平成23年1月5日
昭34年	垣根 正義	平成23年6月
昭36年	栗原 外治	平成23年4月14日
昭38年	柳本 利之	平成23年8月23日
昭41年	大下 峰生	
昭46年	山崎 照夫	平成22年12月
平9年	田中 孝篤	平成22年11月

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

事務局便り

立命電友会会報三十七号の発行にあたり、ご寄稿頂きました皆様に対し、心よりお礼を申し上げます。前回の会報（三十六号）はWEBのみ掲載で発送はしておりませんので、ぜひHPにてご覧ください。事務局では会報の原稿を募集しています。何でも結構ですので、ぜひご連絡をお待ちしております。（宮林）

立命電友会連絡先  
 〒525-1857  
 滋賀県草津市野路東一―一  
 立命館大学理工学部電子システム系内  
 立命電友会事務局 高山 茂  
 宮林和子（月・木）  
 電話 〇七七（五六）二六六二  
 FAX 〇七七（五六）二六六三  
 E-mail: kma98019@se.ritsumei.ac.jp  
 http://ritsuneidenyukai.com/  
 （会報の題字は久保之俊氏）

